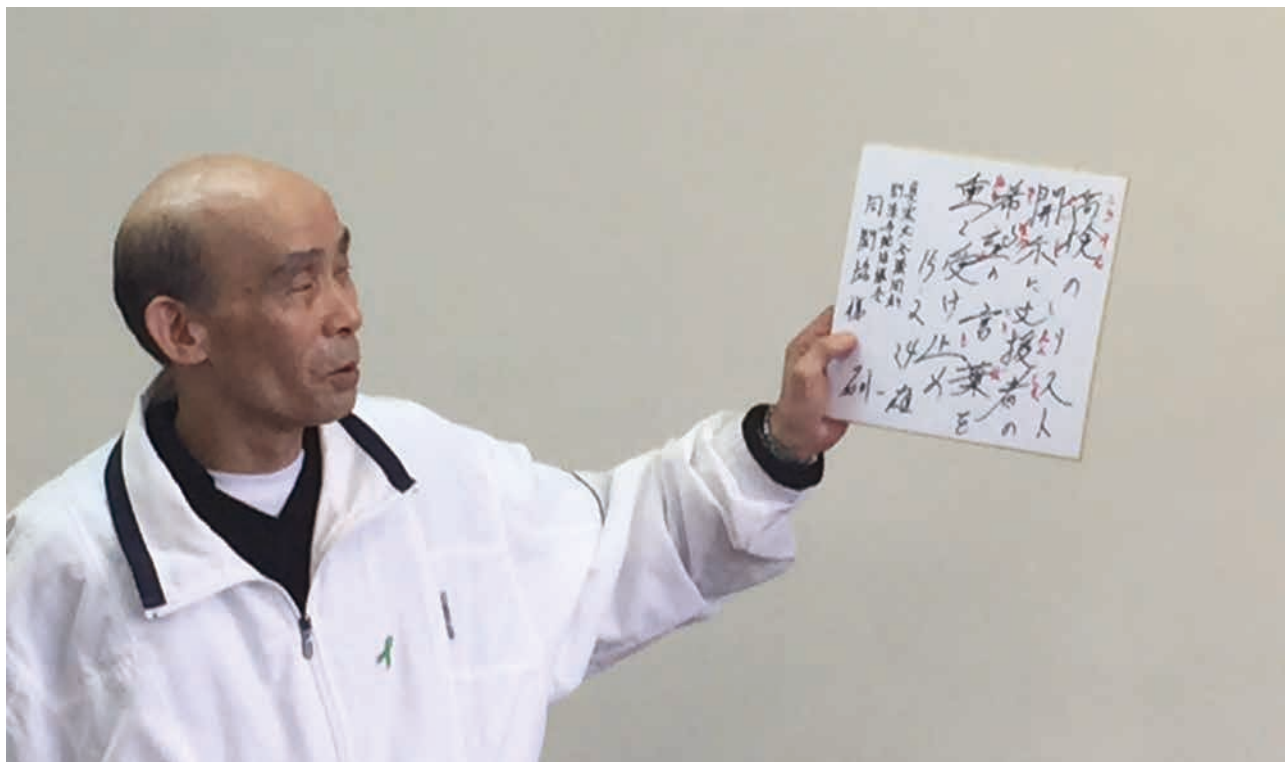


同関協だより



「冤罪・狭山事件と向き合う」／現地研修会にて石川一雄さん

第51号

- ◇ 現地研修会報告「冤罪・狭山事件と向き合う」---- 2
- ◇ 気になる一冊「映画『THE ISLAND』」----- 10
- ◇ 会員の声「岡田克也さん」----- 11
- ◇ 2015年度 総会報告 ----- 12
- ◇ 新編集委員ごあいさつ ----- 16

私たちは
教団内外における部落差別の克服を願いとし
差別に苦しむものが一人でもいる限り
その差別からの解放を自らの課題とする

「同関協」 規程前文

新編集委員ごあいさつ

三重教区 小幡 智博

『同関協だより』第51号から編集委員として携わらせていただく、三重教区南勢一組西光寺住職の小幡智博です。

お寺に生まれたわけではない私は色々なご縁があつて、2011年に37歳で真宗大谷派の僧侶となり、大阪での約15年間の会社員としての生活に別れを告げ、母の実家である西光寺に入寺させていただきました。

その後、近隣のご住職に真宗大谷派同和関係寺院協議会という組織があること、そして西光寺も会員であるということを知り、3年ほど前から関わらせていただくようになりました。

西光寺は、2004年に「同関協」の現地研修会が行われた三重県伊勢市にあり、植木徹誠にゆかりがあるお寺でもあります。

私が中学生の頃、故植木等さんからご自身の著書である『夢を食いつづけた男』（朝日新聞社）を頂きました。内容は徹誠の生涯について書かれているのですが、なかでも1930年代、異常ともいえる弾圧を受けながらも朝熊闘争を皆と共に戦う徹誠の姿は当時の私に衝撃をあたえました。

当時私は将来僧侶の道を進むことになるとは、夢にも思っておりませんでした。まだ部落差別が根深く存在する今の時代に、徹誠と同じく真宗大谷派の僧侶となりました。今後は真宗大谷派同和関係寺院協議会の一員として、差別問題を自らに問い直していきたいと思っております。

そして「同関協」規程前文の「私たちは教団内外における部落差別の克服を願いとし差別に苦しむものが一人でもいる限りその差別からの解放を自らの課題とする」との強い誓いを、全ての方々と心から共有できるように編集作業を通して発信してまいりたいと思います。

訃報

「同関協」常任委員で東北・北陸ブロック長の加藤真人さんが、二〇一五年十二月二日に五十二歳で逝去されました。

孤軍奮闘、「東北・北陸ブロック」活性化に向けてご尽力いただきました。

二〇一四年一月に住職に就任された際に「同関協」に向けて次のような声を寄せておられます。

住職修習での最大の自己矛盾が激化した瞬間が訪れました。住職・教会主管者としての任命式の後、宗祖親鸞聖人御命日日中法要に出仕します。その際に「明確な装束の違いと並び順」というものがあり、そのことは少しは事前に考えていたものの、そのなかに自分が入っていたからです。初めて間近で真横という確度から見た親鸞聖人の御影は灯明に照らされてその印影も含めて恐ろしいほどにリアルであり、その時の私とは違つて黒衣をまとわれているように思われましたが、「親鸞聖人という人」という存在を御影に感じつつ激化する自己矛盾のなかで見上げました。（抜粋）

「差別教団」と言われた教団の一役を担う構成員の一人として、そしてそこからの解放を課題とする「同関協」の一員として「自己矛盾」と闘いながらの活動でした。

編集後記

▼現地研修会で初めて狭山市へ足を運ぶ。書物などで「狭山事件」は知っていましたが、私が生まれる十年前の事件であり、過去の事件として捉えていました。しかし、実際に石川一雄さんご本人からお話を聞くと、過去ではなく、未だ現在のもので聞つておられ、自分の不明を恥じます▼地図だけでは事件現場の位置関係は分かっても、実際の距離や地形までは見えてきません。当時とは風景が変わつても、現地を歩くことで調書などのおかしな点が見えてきます。改めて、フィールドワークの大切さを痛感しました▼四十周年記念誌『熱と光を求めて』がようやく完成。完成したことで終わるのではなく、四十年の歩みを振り返り、今一度、「同関協」がこれからどうあるべきかを考えなければならぬと思います。本棚にしまわれる前に、是非、お読み頂き、御意見・御感想をお聞かせください▼広島部落解放研究所から発行された『經典の「施陀羅」差別を問う』（二部／千円）で、改めて「施陀羅」差別の問題が投げかけられています。現場で『観無量寿経』を説く私たちが門徒さんから問いかれた時、この問題に対し明確に答えることが出来るでしょうか？真摯に考えてゆかなければならない問題です。「同関協」事務局に取り置きがありますので、本山にお寄りの時は、是非お求めください。▼常任委員の加藤真人さん、前専門委員の中西忍さんがお亡くなりになりました。お二人には「同関協」の活動に御尽力頂きました。心よりお悔やみ申し上げます。（吉田 剛）

同関協だより第51号

発行日 2016年1月31日

発行人 菊池成明

発行 真宗大谷派同和関係寺院協議会

〒600-8164 京都市下京区上柳町199

真宗大谷派解放運動推進本部内「同関協」事務局

電話 075-371-9247

会費納入のお願い（年会費3000円）

【郵便振込口座番号】

0101062770

【口座名】同和関係寺院協議会

二〇二四年度現地研修会

二〇二五年二月二十四・二十五日

「冤罪・狭山事件と向き合う」

・埼玉県狭山市・

二〇二五年二月二十四日から二十五日にかけて、二〇二四年度「同関協」現地研修会が「冤罪・狭山事件と向き合う」というテーマのもと開催されました。

今回も現地に身を運び、その地の実情を知るとともに、現地関係者との交流の中で意見と情報の交換の場を持ち得たことは、ともに連帯を保ち、課題の共有を図る上で貴重な場と時間になりました。本研修は当該教区である東京教区の方々にもご参加いただきました。

初日は、狭山市富士見集会所を会場に、石川一雄さんと妻の早智子さん、また安田聡さんからお話を聞かせていただきました。翌日は、当時の事件現場のフィールドワークを「虚偽の自白のストーリー」のテーマに沿って、安田氏の案内のもと行いました。

講義では、石川一雄さんから当時の逮捕から取り調べ、獄中での出来事をお話いただきました。また早智子さんからは現在の高等裁判所前のアピール活動の報告、支援協力のお話がありました。安田さんからは、検察が今まで開示してこなかった事件の証拠リストの開示のお話があり、再審にむけての現状と今の動きを説明いただきました。

狭山事件が起こる約一カ月前、東京で「吉展ちゃん誘拐事件」が発生し、身代金を取られた上、犯人を取り逃がすという事が起こり、警察への信頼が揺らいでいました。その時勢に起きた狭山事件でも、身代金受け渡し場所に多くの警察官を配置するも、またもや容疑者確保できず、大きな社会問題となりました。追い詰められた警察は、予断と偏見による捜査によって被差別部落出身の石川さんを逮捕、送検したのです。そもそも、その逮捕は全く別の件での逮捕でした。

容疑者は被差別部落の人間であると決めつけた背景には、被差別部落の人ならやりかねないという世の中の風潮があります。事件当時の新聞には、被差別部落は「犯罪の温床」と差別記事が掲載されています。また、石川さんの人格までも否定するような報道もされました。

今、新聞やテレビのニュース、ワイドショーなどに加えてインターネットでの情報、また何か起こればすぐに動画が配信される時代です。犯人であるかのような報道や、加害者や被害者の自宅や顔写真をネット上に掲載された結果、情報が独り歩きをし、多くの人が、あたかも犯人であるかのような目をもけてしまっています。オウム事件で、サリンを撒いた一人として報道された菊池直子さん。私は、報道による情報を信じ、当然犯人だと思ってしまいました。裁判は続くようですが、高裁で無罪判決が出ると考えた人がいたでしょうか。情報が多様化し、その情報の広がるスピードが増す中で、情報に左右され、罪の無い人を犯人と思い込んでしまうこともあるのです。

石川さんにお会いし、お話を聞きたいという思いで狭山を現地研修の場として訪れ、直接お話を伺うことができ、現地で事件を検証し無実を確かめました。

裁判長、検察、弁護士との「三者協議」では、証拠リストの開示によって再審が進展するかと考えられましたが、裁判長が変わり不透明な状況です。「同関協」が狭山事件に向きあうとは、「部落差別に苦しむ人がひとりでもいる限り」とうたうのであれば、会員一人ひとりがまず出来る行動として、裁判所に再審請求する葉書を一枚出すことではないでしょうか。

狭山事件発生から五十年を経て現地研修を行った今、再審に向けて活動できる「同関協」でありたいと思います。

（編集委員 高岡聖道）



狭山事件の再審を求めるリボンキャンペーン。再審の世論を高めることが願いだ。

部落解放同盟中央本部事務局員 安田聡 氏

石川さんは、見込み捜査で、証拠がないから別件逮捕されました。これは憲法違反なんです。そんなことがまかりとおる背景に「部落差別」があったわけです。

その教訓の上に、地元では運動があり、集会所が対策事業によって建てられ、この運動を行政も理解するようになりました。狭山の闘いは、冤罪をはらすとともに、差別が冤罪をつくるという構造そのものを、社会をかえていく運動ですし、多くの宗教者の方々もそういう視点で取り組んでこられたんじゃないでしょうか。

再審請求52年目、毎週裁判所の前で石川夫婦が再審のアピール活動を行っています。検察には証拠を出せ。裁判所には証拠開示を命令してくれ。そして出された証拠をちゃんと調べてくれと、石川さんは高裁前で訴えています。

検察が証拠物の一覧表を開示しました。52年経ってどんな証拠があるのかかやっと出てきたのです。まだ出てきていない証拠物もあります。高検以外の証拠物を含めて、それらを開示することを世論が追求していくことが大事です。

いま大きな前進を勝ち取るチャンスが来ています。大きく動いているいま、運動を広げたいと思っています。

運動といっても、できることは裁判所に葉書一枚を出すということ。そういった世論の広がりが必要なんです。（要旨）



石坂啓氏による狭山事件のアピール用フリーイラスト
狭山事件の再審を求める市民集会実行委員会ホームページより
<http://www.sayama-case.com>



石川一雄さんのおはなし

今日はお忙しい中を、狭山事件の研修をしていただけるということで、大変心強く感謝の気持ちでいっぱいです。やっと狭山事件も、警察が昨年の十月に、裁判所に対して証拠開示しないという意見書を出していたので憂慮していたところ、この一月に警察は、自分たちの保管してあるものは全て開示するという発表をしたそうです。私たちは、NHKのテレビで初めてそれを知ったわけです。NHKでは、開示したことは異例中の異例だと言っておりました。しかしながら、やっと高検も動いてくださる。これは皆さん方の支援の賜物であります。今トータルすると東京高検、高裁には二百万以上の署名が届けられているということを伺いました。もちろん皆さん方にも頂戴したと思いますけど、そういったご支援から高検を動かしていただけたと思われまます。ただ樂觀できないのは、事実調べが始まらないと私の無罪は明らかにすることができません。私たちは四十年に渡って事実調べを求めてきたのであります。ところが一切そういうことをせずに棄却をされてきました。今度の証拠によってあらためて、石川一雄の無実が明らかにするんじゃないかと思っております。私たちも高裁前で街宣活動をして裁判官に訴えるのは、私は無実だからすぐに無罪にしろと言ってるわけではなく、真実はず明らかなるから裁判を開いていただきたい、そのことを強く求めているわけでありまます。

私自身が逮捕されたのは、女子高校生殺しの犯人として逮捕されたわけではありません。ただ逮捕された当日から、あたかも女子高校生殺しの犯人だろうと取り調べを受けておりました。私が逮捕されてから自由をするまでの二十九日間の中で、被差別部落の人が四人逮捕されていたのがわかりました。その取り調べの過程で、他の人たちはIさんとKさんですけど、もう自由してるからおまえも自由しろと。石川がやったと言っていると、そういうふうにと迫られました。とりわけKさん。何故Kさんが出たかという

と、犯人が被害者の家に脅迫状を届け、そして身代金を要求したわけでありまますけど、周りを取り囲んでいる警察官が四十人も張り込んでいながら、取り逃がしてしまつた。その取り逃がした範囲内にKさんの家があつた。ですから逃げられて当然だなということから、Kさんを共犯説にしようとしたと思われまます。しかもKさんは地下足袋を履いていたので、犯人が残した地下足袋の足跡の石膏と同じような足型であるということ、そのような取り調べを私は二十九日間うけておりました。ところが自分の信念が折れてしまつたのは、やはり自分の兄貴の名前が出たことであります。

あんちゃんが犯人ではないかと自分が思わされたのは、やはり地下足袋でありました。警察官から、前に地下足袋を履かせたけど、石川履けなかつたな。だけどこれは石川の家から持ってきた地下足袋だと。これが犯人が残していった足跡と同じなんだと。確かに見たら、あんちゃんが履いてたような地下足袋でありました。ただ私は見ての通り、背が小っちゃいけど文数がおよそ二センチ大きいんですね。ですから兄の足袋だと、小さくて踵が出てしまつて履けないんですね。しかし警察官がまさか嘘をつくと思わなかつたんで、犯人が残した足跡と地下足袋は同じだと言われて、あんちゃん以外に犯人はあり得ないと思ひ込んでしまつた。しかも事件の起きた当夜、本人が言うには十二時位だと言っておりまして、兄貴がバイクで帰ってきて、びしょ濡れになつて裸で私の布団をまたいで自分の部屋に行ったことを思い出して、そう言われればそうだなと、あんちゃんは事件の起きた夜遅く帰ってきたなど。死体発見現場も当然確認に行きましたので、警察官から被害者の裸の写真を見せられ、こんなに傷がある、これは砂利運搬の車で降ろした時の傷だと。なるほど、あんちゃんが日頃借りてる車だつたら、被害者が死体で見つかった場所までだつたら入れるなど。自分でそのように考え、これは十中八九あんちゃんが犯人だろうと思ひ込んでしまつたので、警察官と約束したんですね。

狭山事件とは

1963年5月1日、川越高校入間川分校1年生の女子高校生（当時16歳）が、下校後、行方不明になり、同夜、自宅に20万円を要求する脅迫状が届けられました。家族から知らせを受けた埼玉県警は、翌2日深夜、身代金の受け渡し場所に指定された佐野屋という雑貨店周辺に警察官40人を張り込ませましたが、あらわれた犯人を取り逃がしてしまつたのです。3日早朝から警察は山狩り捜査をおこない、翌4日午前10時、農道に埋められていた女子高生の死体が発見されました。

わずか1カ月前に東京でおきた吉展ちゃん事件でも警察は犯人を取り逃がしてしまつた。あいつく警察の失態に、狭山事件は国会でもとりあげられる大問題となり、警察は世論のきびしい非難をうけました。埼玉県警は威信をかけて、捜査員100人からなる特別捜査本部を発足させ、県警はじまって以来という大捜査体制をしきましたが、手がかりはまったくありませんでした。

おいつめられた警察は、住民の差別意識に乗じて、市内の被差別部落に捜査を集中し、石川一雄さん（当時24歳）を5月23日早朝、別件逮捕しました。石川さんを犯人とする決め手になるような証拠は何ら発見されませんでした。石川さんは1カ月にわたって無実を訴えつづけ



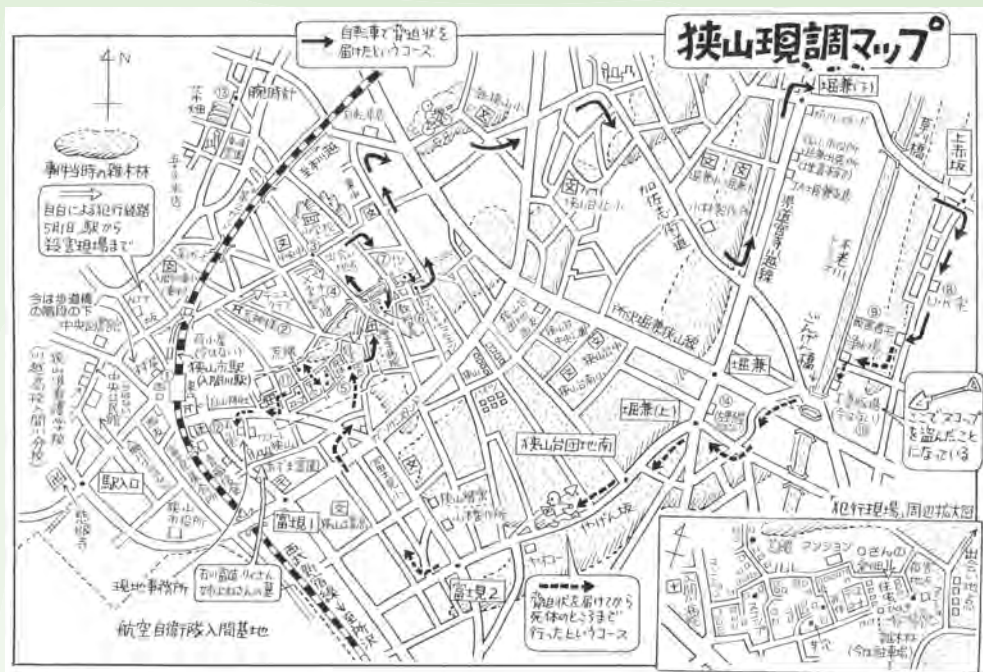
錆び付いた司法の門扉 今度こそ
皆の力で こじ開け勝利
2006年10月31日
石川 一雄

ましたが、連日の取調べの中で警察官の「認めれば10年を出してやる」「兄を逮捕する」といった脅迫や・偽計・誘導によって、ウソの告白をしてしまつたのです。

石川さんは7月9日、女子高校生殺害で起訴され、1審ではわずか半年の裁判で死刑判決が言い渡されました。その後、警察にだまされていたことに気づいた石川さんは、2審第1回公判で無実を訴えました。弁護団の努力で、石川さんの無実を証明する数多くの証拠が出されましたが、東京高裁の寺尾正二裁判長は、1974年10月31日、無期懲役判決をおこないました。1977年8月9日、最高裁は上告を棄却、無期懲役判決が確定し、石川さんは千葉刑務所に下獄しました。

石川さんは1977年8月30日に再審を請求し、獄中から無実を訴えつづけ、1994年12月、仮出獄しました。31年7カ月ぶりに故郷・狭山に戻った石川さんは、その後、支援者の早智子さんと結婚し、ともに冤罪を訴え、再審を求めて闘っています。

石川さんと弁護団は、2006年5月23日、第3次再審請求を東京高裁に申し立てました。弁護団は無実の新証拠を提出し、一日も早く裁判所が事実調べをおこない、再審を開始するよう求めています。



「ウソの自白」に基づいたイラストマップ

ながら、私はあんちゃんが犯人だと思っていたので、面会に来た時に聞いてみたら、烈火の如く叱られました。その兄貴が言うには、確かに深夜に帰って来たと。それは四カ所の集金で遅くなってしまったんだと。しかも足袋がそうだとしても、同じような足袋はいっぱいあると。俺はキチツとしたアリバイがあるから、真実を裁判所に話せる。俺は逮捕されるようなことはない。そう言われたので、より一層裁判所に行ったら真相を訴えなきゃならないと、自分の気持ちが高ぶる中で部屋に帰ったら、たまたま私を担当した刑務官がそのことを知り、良かったら私に真相を話してくれないか、何で自分が犯人になってしまったのか、事細かく話してくれということ聞いていただきました。

これは大変だと。今ここに居るのは全員が死刑囚だと。石川さんを含めて、皆死刑執行を待っている人だと。石川さんも場合によっては二・三年後には、死刑執行になってしまふかもしれないと。助かる道は一つしかない。それは今から勉強して、皆さん方に手紙で訴えなさいと。面会は限られているから、手紙だったら多くの人に知ってもらふことができる。俺が石川さんさえ良かったら、これから字を教えるからということ、教えていただくきっかけとなりました。八年間その刑務官は、私を担当してくださったんですけど、午前中東京拘置所にいると死刑執行があります。順番がありませんので、皆さん午前中は静かに正座して待ってます。だから午前中は私の部屋に見廻る必要がないので、部屋に入ってマンツーマンで字を教えることができた。大体およそ四時間位。しかし死刑執行がある日だけは、私の部屋にその看守さんは入りませんでした。入ってこないということ、誰か死刑執行されるんだなと自分自身でそのように思いながら、私が十二・三年いた中で、七十四人位ですかね死刑執行されていたのは。必ず私たちに挨拶して執行されていきます。私は無実を訴えていたので、石川さん頑張ってたねと、地獄か極楽か解りませんが、とりあえず先に行って待ってるからおっしやって執行されました。でも私はこの看守さんのおかげで、読み書きができるようになったんです。

私は別件だけで九件の悪いことをしちゃったんです。その九件というのは住み込んで働いている家で、その雇い主が例えばキャベツがあるから盗んでこいと。今考えてみると、多分刑務所に行くようなことはなかったと思うんですけど、でも警察官は私の無知というか無学を幸いとして、九件の悪い事を挙げて、これは三年だこれは五年だと、合わせると二十年位出られない。しかしおまえが女子高校生殺しの犯人として自白してくれれば、お兄さんを逮捕しない上に、十年で出してやるとそういう約束をしてくださったんです。念を押したんです私は。じゃあ本当に私が犯人になれば、あんちゃんは逮捕しないんですかと聞いたたら、逮捕しないと。男同士の約束だと、後のことは任せろということだったんで、じゃあ私を犯人にしてくださいと言ってしまったんです。それがつまづきの一歩でした。それがなかったら現在このように長い年月、皆さん方にご迷惑ご心配をおかけせずに済んだんじゃないかと思います。

当時の私は、全く社会的に無知で、まさかこれ程自分を窮地に追い込むとは、考えてもいませんでした。しかし自分が死刑宣告を受けて浦和拘置所に帰ると、同房の人たちがラジオを聞いて、石川さんは死刑になったみたいだけど、警察官は罪を重くしても軽くしないと。お兄さんが犯人だとしても、真実を話した方が良いんじゃないかと言われた。あるいは弁護士に、そのことを伝えた方が良いんじゃないかと言われました。でもその時は弁護士を信じていなかったで、弁護士には一切話さなかった。そして一カ月後に東京拘置所に移送されたので、自分の心の中では訴えようと思ったところ、幸いなことに、三鷹事件の竹内景助さんという人がいて、弁護士は一審の時に皆無罪を主張するのに、何で石川さんは自白を維持をしたのかというのを良かったら俺に話してくれということ、竹内さんに真相を聞いてもらいました。これは大変だと。弁護士に話さなければ、多分石川さんだめだと思うよ。高裁になると、弁護士を通じて裁判官と話することになるので、石川さんが直接裁判官に訴えることはできないということも聞かれました。そうこうしてる内に、自分の兄貴が面会に来たんです。接見禁止は解けたんで、親・兄弟に会えるようになったんで、当然のこと

自白では、石川さんは荒神様の少し先で被害者と会ったという



石川さんの家があった場所に狭山再審闘争勝利現地事務所がある

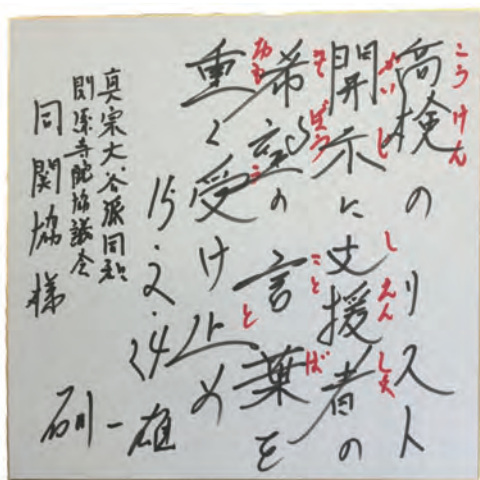


安田氏の丁寧な説明を聞きながらのフィールドワーク



事務所内には当時の石川家のお勝手が再現されている





私は非常に、その看守さんに今でも感謝しているのは、皆さんに訴えるために必要な漢字、それを先に習わしてくださったことです。私はどのような漢字が必要だか分かりません。ですから石川一雄の立場になって、さしあたって必要だなという漢字を習わしてくださった。ですから三年位で皆さん方に何とか読んでいただけるような字が書いていたんじゃないかと思います。私自身は、その看守さんのおかげで読み書きができるようになって、そういう素晴らしい看守さんがいたからこそ、人を信じるようになったんです。心が豊かになったんです。これはもう叫びたい程嬉しかったですね。ものを読める、そして考えることができる、想像力をつける、これ非常に私にとっては、これからもプラスになっていくと思いますけど、何と言っても今は再審開始を現実に実現させなければなりません。自分の無実を証拠上明らかにしておくても、裁判官が法廷の場で石川一雄の無実・無罪を宣言しない限り、石川一雄の殺人犯というレッテルを剥すことはできません。ですから皆さん方が、石川は無実だ冤罪だと言っても、あくまでも、裁判官がそのことを言わない限り、私のレッテルは常に貼られたままであります。ですから一刻も早く裁判を開くことによって、石川一雄の無実が明らかになってくるんじゃないかと思います。

また石川一雄は今日も歌を作らせてもらいました。今日はこういう歌を詠んできました。
「高松のリスト開示に支援者の希望の言葉を重く受けとめ」
これを貰っていただければ有難いと思います。こういう歌を作れるようになったのも、看守さんに字を教えてもらったのおかげです。刑務所に居た時に五千首位作ったと思います。それも家の焼失と共に全部灰になってしまいました。しかし今はね、季

節的なことを詠むことは、私には許されません。今の現状を考えたら、やっぱり事件にまつわる歌じゃないと。きっかけになったのは、看守さんから石川さんはいずれこの牢から居なくなる。その時に何らかの形で残しておくのは短歌が一番良いんじゃないかと勧められたからです。今でも憶えているのは、解放同盟さんが七十一一年に石川一雄の支援団体となった時に、全国行進をやるということで作った歌です。「我が軀幹暗夜の獄に埋もれども心は常に荊冠旗の下」私の体は暗闇の中にがんにがらめになっている、だけど解放同盟が糾弾するその旗のもとには、私の心は必ずとんでいて、そういう意味で作った歌でありました。私が一番最初に解放同盟さんに贈った歌であります。これから私はこれで埋もれてしまうわけではありません。皆さん方に恩返しはできませんけど、第二第三の石川一雄を出させないばかりでなく、色んな差別をなくす運動に、生涯私は携わっていこうと思いますし、またそういう立場にあります。あの意味では使命的なものがあります。石川一雄は無罪を勝ち取って終わりにやありませんしね。皆さん方のご理解が得られれば、私は机に向かって勉強したいなど、夜間中学に行かしていただきたいと思っています。

今は医学も、あるいは科学も進歩して、私の無実を明らかにしてくださいました。とりわけ地下足袋がそうです。三次元スキャナーを裁判所へ持っていつて地下足袋を計ってみたら全然違うと。三次元スキャナーだと平面じゃなく、横からも、あっちこっちから見ることが出来る。ですから当然、犯人が残っていた足跡と、自分の兄貴の地下足袋と比べてみたら傷具合も全然違う。そういうことで分かってきたんですから、裁判官も当然ご承知かと思っています

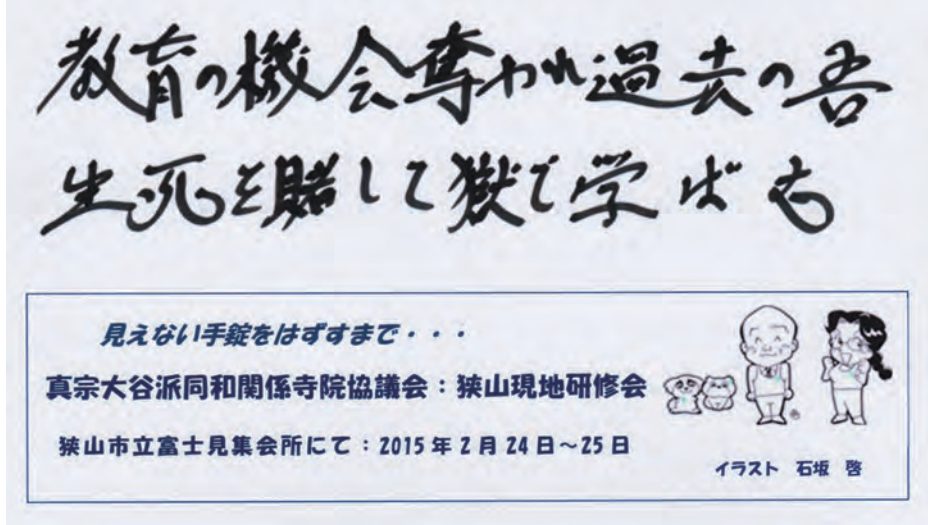


事務所に貼られた手ぬぐい「冤罪と知りつつ開かぬ再審の裏に隠れし権力差別」

で、後は裁判官の決断次第です。検察の方に顔を向けるか、あるいは国民側に顔を向けて真実を究明するために裁判を開くか、そのどちらにかかっていると思いますので、是非とも皆さんの声を裁判所に届けていただきたい。石川一雄の無実、事実調べをさせることによって究明されるわけですから、真相を究明するには、何としても裁判を開かせる以外にはないのです。

この狭山事件では、当時の一番偉い国家公安委員長がこの狭山事件だけは生きた犯人を捕まえずにちやならないと号令をかけた。そして被

差別部落の私たちに白羽の矢が立ち私が犯人にされてしまったと思います。そういう意味では、私は苦しみましたが、でも私自身は皆さんのお叱りを受けるかも知れませんが、今が一番幸せじゃないかと思っています。しかし真実を明らかにしない限り、石川一雄の生涯は全うすることはできないので、是非とも一刻も早く再審裁判ができるように、皆さん方のご理解とご尽力を賜りたいと心からお願ひして、時間ですので私の訴えにかえさせていただきます。本当に今日は有難うございました。



撮影した集合写真を、早智子さんが参加者全員分プリントしてくれました。

冤罪・狭山事件 <http://www.sayama-jiken.com/>
石川早智子さんが立ち上げたホームページ

会員の声

Member's Voices

京都教区
岡田克也さん

「同関協」に入会させていただいて

昨年、先輩の椋田隆知さんから「同関協」への加入を勧めていただき、規程に基づいて、会員の皆様のご賛同をいただき、先般の総会で正式に入会させていただきました。

私自身も1988年に宗務役員を退職して以来、日々の忙しさの中で、部落差別問題を忘れて生きて来ました。宗門においても、かつて部落差別問題は、靖国問題と共に、信心の問題として大切にされて来ました。しかし、1969年に難波別院輪番による差別事件を起こして糾弾を受けたことも、喉元過ぎれば熱さを忘れるが如く、現在ではたくさんある差別問題の一つのように薄まって来たように感じています。しかし、部落差別は決して過去のことではないと思います。人間は、本当に大事なことを忘れた時に、簡単に過ちを繰り返すものだと思います。宗門はもっと部落差別問題に力を入れて取り組むべきだと思います。

宗門はかつて、親鸞聖人が共に念仏して生きる人を「御同朋・御同行」と大切にされた心を見失い、世間で差別をされて苦しむ被差別部落寺院に対して、御依頼割当の五割増しや、得度式も御影堂内で行わない等の、二重の過酷な差別を行いました。それは、親鸞聖人の教えを、宗門が本当の意味でいただいていたことがなかったことを表していると思います。

親鸞聖人83歳のお姿「安城の御影」は、狸の皮を敷き、猫皮の草履を前に置いた姿が描かれています。また、85歳の時に書かれた『唯信鈔文意』には「りょうし・あき人、さまざまのものは、いし・かわら・つぶてのごとくなるわれらなり」とあります。親鸞聖人は『恵信尼文書』が発見されるまでは、当時の歴史資料に一切出ないことから、存在すらも疑われていました。しかし、これらは親鸞聖人が貴族等の権力・知識層と全く交わらず、最晩年に至るまで、猟師・漁師、商人等の歴史に出ない差別されて生きる人たち等と共に生きられたことを明確に表しているのだと思います。

親鸞聖人は「縦令一生造悪の衆生引接のためにとて 称我名字と願じつつ 若不生者とちかいたり」(『高僧和讃』)と述べられます。八大地獄に落ちる罪である殺生を行わなければ生きて行くことの出来ない悪人と呼ばれた人々と共に生き、共に念仏によって救われていくことを願い誓われたのが親鸞聖人だったと思います。

今回、緊張しながら初参加させていただいた「同関協」の総会で、とても温かく受け入れていただき、本当に嬉しかったです。何卒よろしく願いいたします。

気になる一冊

- Books & Movies -

『THE ISLAND』

- アイランド - / 2005年(米)

マイケル・ベイ監督



今回は趣向を変えて、気になる映画を紹介します。大気汚染が進み、地上では生存できなくなった近未来、僅かに生き残った人類は厳重に隔離された施設で管理され、厳しい規律の中で穏やかに暮らしていた。人々の唯一の希望は「アイランド」へ移住する事。世界で唯一大気汚染を免れた場所。地上最後の希望の楽園アイランド。不定期に開催される抽選に選ばれた者だけが、この閉鎖された施設から解放され、自由を手に入れられる。だが、アイランドへ行って戻って来た者は誰もいない。

しかしある日、主人公は真実を知ってしまう。この世界にアイランドは存在せず、大地を覆う大気汚染も虚構であつた。施設に暮らす人々は、外の世界のクライアントから依頼を受け不慮の事故や病気に備え、自らの遺伝子から複製された、生体臓器バンクとして飼育されていたの

だった。真実を知った主人公たちは、自ら人間であるとの叫びと共に、人間として生きる権利を求め命がけで逃亡し戦いに身を投じていく。

SF作品において、人造人間やクローンというのは、古くから数多く描かれており、まさに王道のテーマといえるでしょう。それだけに誰もが思い描く未来の姿であり、必要とされている技術なのでしょう。

京都大学の山中教授が、iPS細胞でノーベル賞を受賞したことは記憶に新しいところですが、近年の遺伝子技術の飛躍的進歩によって、空想の世界であつたものが、徐々に現実味を帯びてきています。重篤な病気や怪我・老いに苦しむ人たちは、遺伝子治療や臓器複製技術の一日も早い確立を願っていますが、越えなければならない倫理的な課題は多く、作品を通して極端な表現ではあるが、科学技術の行き着く先の未来に警鐘を鳴らしています。

この作品において主人公たちは、今生きている人間としての姿ではなく、この世に生まれてきた理由、出生によって人間として自由に生きていく権利を奪われ、商品としてのみ生きることが許されます。命を物として扱い所有化する人間の傲慢さや、他者を尊重することのない差別性を、非常に残酷な形で描き出し、私たちの内にある非人間性を明らかにします。主人公に意図して付けられたリンカーンという名前に込められた解放への願い、そして人権とは何かとの問いが、作品の根底に流れていると感じました。今だに差別を克服できない我々に、人間が人間として認め合えることの大切さを訴えかけているのでしょう。

興味のある方は、ぜひ一度観てください。もちろんSFアクション映画としても充分以上に楽しめます。

(編集委員 谷内正孝)

2014年度真宗大谷派同和関係寺院協議会補正予算

自2014年7月1日 至2015年7月19日

		歳入の部	3,400,000 円			
		歳出の部	3,400,000 円			
歳入の部						
項	目	項目	補正予算額	予算額	比較増減	備考
1	1	会費	240,000	240,000	0	80カ寺（@3,000*80）
2	1	本山助成金	2,500,000	2,500,000	0	
3	1	繰越金	657,470	657,470	0	前年度より繰越金
4	1	雑収入	2,530	2,530	0	
		合計	3,400,000	3,400,000	0	

歳出の部						
項	目	項目	補正予算額	予算額	比較増減	備考
1		会議費	1,680,000	1,880,000	△ 200,000	
	1	総会費	510,000	710,000	△ 200,000	新基準旅費
	2	三役・常任・専門委員会費	900,000	900,000	0	常任・専門3回、三役4回
	3	三役・ブロック長会議費	250,000	250,000	0	2回
	4	会計監査費	20,000	20,000	0	
2		事業費	510,000	880,000	△ 370,000	
	1	組織拡充費	100,000	180,000	△ 80,000	現地研修会
	2	会報費	300,000	300,000	0	同関協だより・編集会議
	3	調査費	0	0	0	今年度より廃目
	4	事務局運営費	110,000	400,000	△ 290,000	新規
3		ブロック活動助成費	240,000	240,000	0	4ブロック助成
	1	ブロック活動助成費	240,000	240,000	0	
4		発送費	120,000	140,000	△ 20,000	新規
	1	発送費	120,000	140,000	△ 20,000	
5		40周年特別事業回付金	821,500	230,000	591,500	新規
		40周年特別事業回付金	821,500	230,000	591,500	
6		予備費	28,500	30,000	△ 1,500	
	1	予備費	28,500	30,000	△ 1,500	
		合計	3,400,000	3,400,000	0	

2014年度真宗大谷派同和関係寺院協議会決算

自2014年7月1日 至2015年7月19日

		歳入の部	3,418,856 円			
		歳出の部	2,974,483 円			
		差引残高	444,373 円			
			606,500 円（特別事業次年度へ繰越金）			
		繰越金	1,050,873 円			
歳入の部						
項	目	項目	予算額	収入額	比較増減	備考
1	1	会費	240,000	261,000	21,000	87カ寺（@3,000*87）
2	1	本山助成金	2,500,000	2,500,000	0	
3	1	繰越金	657,470	657,470	0	前年度より繰越金
4	1	雑収入	2,530	386	△ 2,144	
		合計	3,400,000	3,418,856	18,856	

歳出の部						
項	目	項目	予算額	支出額	比較増減	備考
1		会議費	1,680,000	1,497,500	△ 182,500	
	1	総会費	510,000	477,000	△ 33,000	旅費、講師謝礼、懇親会助成
	2	三役・常任・専門委員会費	900,000	892,000	△ 8,000	三役6回、常任・専門3回旅費、その他
	3	三役・ブロック長会議費	250,000	116,500	△ 133,500	旅費（1回）
	4	会計監査費	20,000	12,000	△ 8,000	旅費、日当
2		事業費	510,000	376,650	△ 133,350	
	1	組織拡充費	100,000	75,435	△ 24,565	現地研修会
	2	会報費	300,000	203,500	△ 96,500	だより印刷代、編集委員旅費、日当など
	3	調査費	0	0	0	廃目
	4	事務局運営費	110,000	97,715	△ 12,285	事務経費
3		ブロック活動助成費	240,000	180,000	△ 60,000	
	1	ブロック活動助成費	240,000	180,000	△ 60,000	4ブロック助成
4		発送費	120,000	98,833	△ 21,167	だより、総会、現地研修等の案内
	1	発送費	120,000	98,833	△ 21,167	
5		40周年特別事業回付金	821,500	821,500	0	
		40周年特別事業回付金	821,500	821,500	0	記念誌
6		予備費	28,500	0	△ 28,500	
	1	予備費	28,500	0	△ 28,500	
		合計	3,400,000	2,974,483	△ 425,517	

真宗大谷派同和関係寺院協議会2015年度総会

【議案】

- 議案第 1 号 2014年度真宗大谷派同和関係寺院協議会事業報告
- 議案第 2 号 2014年度真宗大谷派同和関係寺院協議会補正予算書
- 議案第 3 号 2014度真宗大谷派同和関係寺院協議会決算
- 議案第 4 号 会計監査報告
- 議案第 5 号 2015年度真宗大谷派同和関係寺院協議会事業計画（案）
- 議案第 6 号 2015年度真宗大谷派同和関係寺院協議会予算
- 議案第 7 号 新役員・新会員の承認について
- 議案第 8 号 「三要求」について
- 議案第 9 号 事務の体制及び規程の一部改正について
- 議案第 10 号 その他

◇ 真宗大谷派同和関係寺院協議会規程の一部改正について

新規則：（事務）

第12条 協議会の事務所は**真宗教化センター解放運動推進本部**内に置き、**事務担当者1人**を第5条第1項第1号から**第5号**の役員から互選によって定める。なお、必要により事務補助を置くことができる。

旧規則：（事務）

第12条 協議会の事務所は**会長宅**に置き、事務は第5条第1項第1号から**第3号**の役員から互選によって定める。なお、必要により事務補助を置くことができる。

2014年度「同関協」事業報告



		2014年	2015年
7月10日	会計監査	1月15日	第4回三役会
23日	2014年度総会	23日	第7回40周年記念誌編集会議
24日	第1回三役・常任・専門委員会	30日	第2回三役・常任・専門委員会
9月 4日	第1回三役会・第1回40周年記念誌編集会議合同会議 第1回『同関協だより』第50号編集会議	2月 3日	第8回40周年記念誌編集会議
17日	第2回40周年記念誌編集会議	12日	第9回40周年記念誌編集会議
10月15日	第3回40周年記念誌編集会議	24日	現地研修会／埼玉県狭山市（～25日）
11月11日	第2回三役会・第4回40周年記念誌編集会議合同会議 第2回『同関協だより』第50号編集会議	3月13日	40周年記念誌事業（座談会 枳殻邸）
12月10日	第3回三役会、第5回40周年記念誌編集会議合同会議	25日	第3回『同関協だより』第50号編集会議
24日	第6回40周年記念誌編集会議	4月 8日	第5回三役会
		9日	第10回40周年記念誌編集会議合同会議
			第4回『同関協だより』第50号編集会議
		4月17日	第11回40周年記念誌編集会議
		5月 1日	第5回『同関協だより』第50号編集会議
		12日	第1回三役・ブロック長会議
		22日	第6回『同関協だより』第50号編集会議
		6月10日	第12回40周年記念誌編集会議
		12日	第6回三役会
		15日	第3回三役・常任・専門委員会
		22日	第13回40周年記念誌編集会議
		29日	第14回40周年記念誌編集会議
		30日	第15回40周年記念誌編集会議
		ブロック協議会	
		〈近畿ブロック〉	
12月 3日	現地研修会（京都教区同和協議会との共催） 水平社博物館、西光寺／奈良県		
12月 4日	第1回会議		
5月13日	第2回会議		
		〈九州ブロック〉	
1月19日	第1回会議		
4月20日	現地研修会（～21日） 被爆・戦後70年と部落差別／長崎教務所 他		

2015年度「同関協」事業計画

2015年

2016年

7月7日 第1回三役会
13日 第1回40周年記念誌編集会議
21日 会計監査
22日 2015年度総会
23日 第1回常任・専門委員会
30日 第2回40周年記念誌編集会議
8月 第3回40周年記念誌編集会議
40周年記念誌発行
『同関協だより』第50号発行
9月 第1回『同関協だより』第51号編集会議
10月 第2回『同関協だより』第51号編集会議
11月 第1回三役・ブロック代表者会議
第3回『同関協だより』第51号編集会議
12月 第2回三役会

1月 第2回 常任・専門委員会
第3回 三役会
第1回『同関協だより』第52号編集会議
2月 現地研修
4月 第2回『同関協だより』第52号編集会議
第2回 三役・ブロック代表者会議
5月 第3回『同関協だより』第52号編集会議
6月 第4回 三役会
第3回 常任・専門委員会

各ブロック協議会（下半期）
『同関協だより』第52号 発行

必要に応じて、三役会を開催する。
『同関協だより』編集会議は各号3回開催する。

各ブロック協議会（上半期）
『同関協だより』第50号・第51号 発行

2015年度真宗大谷派同和関係寺院協議会予算

自2015年7月19日 至2016年6月30日

		歳入の部	3,860,000 円			
		歳出の部	3,860,000 円			
歳入の部						
項	目	項目	予算額	前年度予算額	比較増減	備考
1	1	会費	300,000	240,000	60,000	100カ寺（@3,000*100）
2	1	本山助成金	2,500,000	2,500,000	0	
3	1	繰越金	1,050,873	657,470	393,403	前年度より繰越金
4	1	雑収入	9,127	2,530	6,597	
		合計	3,860,000	3,400,000	460,000	

歳出の部						
項	目	項目	予算額	前年度予算額	比較増減	備考
1		会議費	1,750,000	1,680,000	70,000	
	1	総会費	510,000	510,000	0	
	2	三役・常任・専門委員会費	960,000	900,000	60,000	常任・専門3回・三役4回
	3	三役・ブロック長会議費	260,000	250,000	10,000	2回
	4	会計監査費	20,000	20,000	0	
2		事業費	1,080,000	510,000	570,000	
	1	組織拡充費	180,000	100,000	80,000	現地研修会
	2	会報費	820,000	300,000	520,000	同関協だより・編集会議
	3	事務局運営費	80,000	110,000	△ 30,000	
3		ブロック活動助成費	260,000	240,000	20,000	
	1	ブロック活動助成費	260,000	240,000	20,000	4ブロック助成
4		発送費	120,000	120,000	0	
	1	発送費	120,000	120,000	0	
5		40周年特別事業回付金	626,500	821,500	△ 195,000	
	1	40周年特別事業回付金	626,500	821,500	△ 195,000	
6		予備費	23,500	28,500	△ 5,000	
	1	予備費	23,500	28,500	△ 5,000	
		合計	3,860,000	3,400,000	460,000	

2014年度真宗大谷派同和関係寺院協議会40周年特別事業補正予算

自2014年7月1日 至2015年7月19日

		歳入の部	1,121,500 円			
		歳出の部	1,121,500 円			
歳入の部						
項	目	項目	補正予算額	予算額	比較増減	備考
1		40周年特別事業回付受金	821,500	230,000	591,500	
	1	40周年特別事業回付受金	821,500	230,000	591,500	経常費より助成
2		本山助成金	300,000	300,000	0	
	1	本山助成金	300,000	300,000	0	本山より助成
		合計	1,121,500	530,000	591,500	

歳出の部					
項	目	項目	補正予算額	予算額	比較増減
1		会報費	420,000	420,000	0
	1	会報費	420,000	420,000	0
2		会議費	631,500	40,000	591,500
	1	会議費	631,500	40,000	591,500
3		通信費	50,000	50,000	0
	1	通信費	50,000	50,000	0
4		予備費	20,000	20,000	0
	1	予備費	20,000	20,000	0
		合計	1,121,500	530,000	591,500

2014年度真宗大谷派同和関係寺院協議会40周年特別事業決算

自2014年7月1日 至2015年7月19日

		歳入の部	1,121,500 円			
		歳出の部	515,000 円			
		差引残高	606,500 円（2015年度経常予算へ繰入）			
歳入の部						
項	目	項目	予算額	収入額	比較増減	備考
1		40周年特別事業回付受金	821,500	821,500	0	
	1	40周年特別事業回付受金	821,500	821,500	0	経常予算より助成
2		本山助成金	300,000	300,000	0	
	1	本山助成金	300,000	300,000	0	本山より助成
		合計	1,121,500	1,121,500	0	

歳出の部					
項	目	項目	予算額	支出額	比較増減
1		会報費	420,000	0	△ 420,000
	1	会報費	420,000	0	△ 420,000
2		会議費	631,500	515,000	△ 116,500
	1	会議費	631,500	515,000	△ 116,500
3		通信費	50,000	0	△ 50,000
	1	通信費	50,000	0	△ 50,000
4		予備費	20,000	0	△ 20,000
	1	予備費	20,000	0	△ 20,000
		合計	1,121,500	515,000	△ 606,500

2015年度真宗大谷派同和関係寺院協議会40周年特別事業予算

自2015年7月19日 至2016年6月30日

		歳入の部	626,500 円			
		歳出の部	626,500 円			
歳入の部						
項	目	項目	予算額	前年度予算額	比較増減	備考
1		40周年特別事業回付金	626,500	821,500	△ 195,000	
	1	40周年特別事業回付金	626,500	821,500	△ 195,000	本山助成300,000円含む
		合計	626,500	821,500	△ 195,000	

歳出の部					
項	目	項目	予算額	前年度予算額	比較増減
1		会報費	420,000	420,000	0
	1	会報費	420,000	420,000	0
2		会議費	136,500	631,500	△ 495,000
	1	会議費	136,500	631,500	△ 495,000
3		通信費	50,000	50,000	0
	1	通信費	50,000	50,000	0
4		予備費	20,000	20,000	0
	1	予備費	20,000	20,000	0
		合計	626,500	1,121,500	△ 495,000